



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Perceptions, attitudes and knowledge regarding the Steller sea lion-fisheries conflict in Hokkaido coastal waters
Author(s)	BROCHUT, Fleur Emelyn Christel
Description	この博士論文の全文は利用可能日以降に公開されます。利用可能日以前の閲覧方法は https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/ をご参照ください。
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(水産科学)
Dissertation Number	甲第16707号
Issue Date	2026-03-25
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k16707
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99552
Type	doctoral thesis
File Information	Fleur_Brochut_review.pdf, 審査の要旨 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（水産科学） 氏名：プロシュール フルール エメリンクリステル

審査委員	主査 教授	高 津 哲 也
	副査 教授	藤 森 康 澄
	副査 准教授	山 村 織 生
	副査 助教	ティエボ ジャンバティスト
	副査 特任助教	大 槻 真友子

学 位 論 文 題 目

Perceptions, attitudes and knowledge regarding the Steller sea lion-fisheries conflict
in Hokkaido coastal waters

（北海道沿岸におけるトドと漁業の対立に関する認識、態度と知識）

漁業と鰭脚類の軋轢は世界的に生じており、経済的損失だけでなく社会的・文化的背景とも深く関わる複雑な問題である。北海道沿岸漁業ではトドによる被害が深刻で長年の対策にもかかわらず漁業者の不満は大きいものの、これまで人間側の要因は十分に検討されてこなかった。本研究では文献レビューとインタビュー調査を通じ、この対立を人文科学的側面から分析した。

申請者はまず包括的な文献調査を行い、受動的漁具を用いる沿岸漁業での軋轢が特に深刻で、混獲や漁具被害が主要な問題であること、非致命的技術は一定の効果があるが社会的受容との調整が不可欠であることを示した。

次に、北海道の刺網および定置網漁業者を対象とした聞き取り調査を行い、両漁法の漁業者がトド被害と対策に対しての感情を共有する一方、漁法間での温度差を明らかにすると共に漁業者の自立志向と行政との対話不足を指摘した。更に市民を対象に行った調査では、定性・定量的データを合わせた手法により漁業者と市民の比較を行い、価値観や利害が異なる者同士であっても漁業や漁村の維持やトドとの共存の重要性といった思いを共有している点を示し得た。以上の結果に基づき申請者は異なる立場間の対話と協働の重要性を指摘し、共通の価値観を通じた合意形成と緩和策立案の可能性を提示した。

以上の成果は人間と野生生物の間の軋轢の緩和・共存策のみならず沿岸漁業と漁村の持続性を探るためにも有益な知見を提供しており、審査員一同は博士（水産科学）の学位を授与される資格のあるものと判定した。